



ゲームって大丈夫…？！

子どもたちの世界に、ゲームが入ってきて久しいです。皆さんは、ゲームについてどのように考えていますか。僕は、幼少期からゲームをすることは、子どもたちにとって、よくない面が多いのではないかと考えています。

僕も大学生の時、一時ゲームにはまりました。ロールプレイングゲームのドラゴンクエストです。Ⅰ～Ⅲまでやりました。Ⅲをやり終えたとき、やったあ、クリアだと思いながら、同時にこのクリアするまでの時間って一体・・・と感じました。クリアするまでにはかなりの時間を要していたのです。これが、様々なことを十分に判断できない子どもだったらどうだろう？！と考えると、心配になります。これは僕の経験からの危惧ですが、ゲームが子どもに与える影響はどのようなものか、それをじっくり考えておく必要があるのではないのでしょうか。

オンラインゲームの中でのトラブルが、学校の中に持ち込まれることが増えていると感じます。それは、ゲームの中での友だち関係のトラブルが、現実世界でも問題になるケースです。例えば、1人あるいはパーティを作って他のチームと戦うようなゲーム、バトルロワイヤルといって、生き残ることをめざすゲームでのことです。子どもたちはみんな、他の人やパーティに負けたくないのに、初心者を入れたくなかったり、下手なプレイヤーを仲間にしたくなかったりします。そういった人をチームに入れないことを「キック」(外し)というそうです。所謂仲間はずれです。また、ボイスチャットで自分の装備等のことで馬鹿にされたり、暴力的な言葉をかけられてしまったりすることもあるようです。面と向かっての会話では使わない言葉も、空間が離れた仮想現実の世界なら言ってしまうのです。そうされた子どもたちがどうするかといえば、現実の友だち関係の中で怒りをあらわにします。

このボイスチャットでは、知らない人間ともつながれるそうです。コミュニケーションツールとして考えれば、様々な人とつながれることは「よさ」と言えるのですが、出会う人全てがよい人とは限りません。自分を偽って、近づいてくる人間もいないとは言えないのです。よく耳にする、オンラインゲームで知り合った大人に拉致されたり、連れ回されたりする犯罪を思い起こすと、やっぱり怖くなります。

そして、現実世界での不安や怒り、焦り等の負

の感情を安全に抱えられず、それをゲームの中でしか解消できない児童も見られます。そういう子は、自分に対して何か起きて負の感情がわき上がった時、ゲームすることへの怖いくらいの執着を示します。彼は、自分の負の感情を解消する術がゲームだけしかないのです。

それから、専門医が警鐘を鳴らしているのが、「ゲーム依存」です。ネット利用をやめられない「ネット依存」の中で、治療を求めて来院する人のほとんどがゲーム、それもオンラインゲームへの依存が原因だと、久里浜医療センター樋口院長が指摘されていました。アルコールやギャンブル依存症などと同様の疾患だとしています。その話の中で気になったのは、「ゲームの中でチームを組んだり、互いの成果を評価し合ったりする関係が、自分という存在が認められる唯一の場と感じてしまうようになり、ゲームをやめると自分の居場所がなくなる。そんな悩みを訴える受診者が多い」と話されていたことです。この内容は、リアルに生きる自分とゲームの中に生きる自分との乖離を感じさせ、肌寒く感じます。

一方、ゲームが脳に与える「よさ」についての報告もされています。例えば、新しいゲームをわくわくして始める時、脳の「海馬」という部分が活性化すること、ロール・プレイング・ゲームが、思考力・判断力を上げるという研究があること、パズルゲームが右脳優位の「理系脳」になることに影響を与えていると言われていることなどです。

ゲームは、きっと楽しいものだと思います。その「よさ」についての研究も為されています。何より子どもたちは、みんな生まれたときからゲームやパソコンが存在する世代です。僕の世代とは全く違います。その彼らを、ゲームから全く遠ざけるということは現実的でないのかもしれませんが。

だからこそ、ゲームとどう付き合わせていくかについて、親御さんひとりひとりが、きちんと考えてほしいと思います。きちんと考えられる年齢まで待たせて与えたり、よりよい付き合い方を一緒に考えたり、ルールを徹底したり(プレイ時間の管理は、必須です。)、プレイするゲームの内容を知っておいたりといったことを、親の責任で必ずしなければなりません。

ゲームは、よさの裏側にたくさんの心配が隠れています。ゲームを与えた(る)のは誰ですか。そこには、与えない選択もあったはずですが、与えたことから生じる様々な心配への対応は、与えた自分がする以外ないと心してほしいと考えます。もちろん学校も一緒に考えていきます。